

地域の養鶏会社と集落営農組織の連携による、
荒廃農地を活用したエゴマ栽培

おおだし
〔島根県大田市〕

新規就農	企業参入	6次産業化	農地中間管理機構
農福連携	鳥獣害対策	地域・集落の共同活動	その他

1. 地域農業の状況

- 大田市農業の概要
海岸に近い平坦地域と内陸地域では、担い手による水田農業、キャベツ・イチゴ・メロン等の園芸品目、大規模な畜産経営が行われている。標高約460m付近の三瓶山麓地域では、主に酪農や米の特別栽培が展開。
また市全体で新たな特産品として白ネギを広げつつある。
荒廃農地は内陸地や三瓶山麓を中心に発生。直近5年の面積はほぼ横ばいであり、再生利用が課題である。
- ・耕地面積(R3) 2,393ha(うち田1,800ha、畑593ha)
 - ・荒廃農地面積(R2) 601ha
 - ・担い手農地集積(R3) 660ha(集積率27.5%)

- 神原地区の概要
神原地区は内陸地域に位置する周囲を山に囲まれた中山間地域。
過去に農地の団地化によるブルーベリー栽培が行われていたが、栽培されなくなって以降は管理が行われず、荒廃農地となっていた。



- 荒廃農地再生に至った経過
市内には県内最大規模の養鶏会社があり、地域で獣害を受けにくい作物として栽培されていたエゴマに着目し、これを飼料に混ぜたこだわりの卵生産・販売を計画。
養鶏会社では、農地がまとまっているブルーベリー園跡地を活用したエゴマの栽培・安定確保を考えたが、取組を検討する中で単独での栽培は難しいと考え、市内の集落営農組織に働きかけ、連携して再生・活用することとなった。

2. 地区概要

取組主体	担い手農業者 (養鶏会社、集落営農2組織)	地区名	神原(かんばら)地区
再生面積	4.4ha	取組年次	平成30年6月～令和元年7月
作付作物	エゴマ	販路	市内の養鶏場に販売

3. 取組内容及び効果

地域の担い手が連携し、荒廃農地を再生・集積

- 地域内で需要(販路)があるエゴマ栽培の拡大に担い手が連携して取り組む。
- ブルーベリー園跡地(荒廃農地)の再生・活用によりまとまった農地を確保。
- 国の事業を活用して農地再生を行うとともに、農地中間管理機構を活用して担い手に農地を集積。

<取組の概要>

- 活用事業 農地耕作条件改善事業(国)
(事業実施主体:大田市)
- 再生面積 4.4ha
- 事業内容 ブルーベリー樹木の除去
雑草等の刈払
農地の造成
- 再生後 令和2年度に4.4haでエゴマ栽培を開始

<取組の効果>

- 【荒廃農地の再生・活用】
今回の再生により4.4haの農地の有効活用を実現。また、約30aを担い手に新規集積(新たに農地バンクを活用)
- | | 再生前 | 再生後 |
|-------|-------|--------|
| 養鶏会社 | 4.1ha | ⇒1.9ha |
| 集落営農A | 0ha | ⇒2.2ha |
| 集落営農B | 0ha | ⇒0.3ha |

【再生前】



【再生後】



活用した支援策 H30 農地耕作条件改善事業(国)

【エゴマの安定供給】

生産されたエゴマは養鶏会社へ供給。地域内でエゴマ(餌の原料)を確保することにより「エゴマたまご」の安定販売に貢献。

